



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

ローカルメディアによる 地域の魅力発信

私たちは一体どんな情報を、どこから得て日々の暮らしをしているのでしょうか。口コミだけしか情報伝達手段のなかった昔に比べ現代は、テレビなどのマスメディアやソーシャルメディアの普及もあって、遠く離れた海外の色々な情報さえ瞬時に手元に届き、何が本当の情報なのかさえ分かりにくい時代となっています。メディアにはテレビ、新聞、雑誌、ラジオといったマスメディア、インターネットを介するウェブメディア、そしてスマートフォンなどの最新デバイスを主に媒介とするソーシャルメディアなどがあり、それぞれのメディアには複数の広告媒体がついています。一方地方に特化したローカルメディアとでもいうべき情報は、一定の広がりや定着は認められるものの、それらに関わる担い手不足と難しさから、地域の魅力を十分発信するまでには、

成熟していないというのが正直なところで

1 一方通行の広報紙

私は若い頃、役場の職員として教育委員会で社会教育をしながら、町の広報を十年間にわたって担当しました。当時広報「ふたみ」は月に二回の発行でしたから、タブロイド版といえどたった一人で、社会教育と広報という二足の草鞋を履きながら、通算二百四十号を発行した思い出は数限りなく、行政が発行する小さな広報紙が町の世論を形成し、今を切り取って記録し、記憶に残してきたことに深く関わったことを嬉しく思っています。

小さな町ながら目と耳のアンテナを広げ、靴底をすり減らして町内の隅々まで寸暇を惜しんで歩き回り、取材した様々な出来事を記事にして、町民の元へ届けたつもりでしたが、思えば広報紙という媒体手段が一方通行であることに気が付いたのは、お粗末ながらかなり後のことでした。ローカルメディアⅡ地方紙(広報紙含)だった紙媒体主流のアナログな一方通行の情報とは、今も市民に対するお知らせ的行政広報として、地元の広報委員などを介して市民

の元へ送り届けられています。活字離れたもあって今では時代遅れの感が強く、それに代わる手段と方法はホームページ程度で、残念ながらまだ見つかっていません。

2 ソーシャルメディアのブログによる 地域の魅力発信

現代はインターネットやスマホなどの普及もあって、デジタル主流の世の中になりつつあり、私のようなパソコンを学校で習わなかった世代には、何とも住みにくい世の中になったものだとしみじみ思うのです。

さて私は2006年から殆ど毎日欠かさことなく、パソコンを使ってアメーバブログ(shin1さんの日記)とWordPress(人間牧場)に、2本のブログを書いて投稿しています。1年365日×2本×13年ですから単純計算しただけでも、私がコッソク書いた記事はこの13~14年間で、有に1万件を超えているのですから、驚くほかありません。毎朝4時ごろに起床し、前日あった出来事やその日に予定されていることなどを、住んでいる町の様子も交え、日々の想いを自分というもう一人の人間と自問自答しながら、毎日1時間ほどかけて書き綴りアップしていますが、いつの間にか私の周

りには、顔も分からず出会ったことすらない人が沢山いるものの、登録している人の数は有に千人を超え、その中には毎日のように書いた記事にコメントを入れて交流してくれる人もいて、少なからず手応えを感じています。自分自身の日々の日常を記録するつもりで始めたブログですが、長年まちづくり活動に深く関わっていることもあって、いつの間にかブログというソーシャルメディアは、自分の日常や、住んでいる地域の身近な情報を発信するだけでなく、地域を編集するまでに広がり、他人や他地域情報を受信・交流、さらには地域の活性化という目的で、需要を積極的に取りに行くメディアにまでなろうとしています。また将来のためしつかり記録した記事や写真は、必要に応じてアーカイブス機能で再生し、目的に沿って目に見える歴史として利活用しています。

3 ローカルメディアは地域の魅力発信に役立つのか？

私は県内・市内・町内の色々な地域づくりグループに所属していますが、とりわけ同じ地域に住む人たちとは、閲覧板や井戸端会議のように、ローカルメディアを

使つて繋がっています。高齢化が進んでいる町ゆえにメディア手段を持たない人も多いけれど、町内にはバックグラウンドが異なる別のコミュニティや別の年代の人も過疎地ながら沢山いて、時々開くワークショップに参加した人たちと、ローカルメディアによつて新たなグループをつくつて参加し、地域の抱える様々な問題を、一緒になつて解決しようとながり始めています。しかし私たちが活用しているメディアの手法は都会の物真似が多く、ローカルメディアが地域の魅力を発信し、地域づくりの価値ある道具として使いこなせるまでにはなつておらず、地域の魅力を発信するにはまだまだ高いハードルを越えなければならぬようです。

4 ローカルメディアの果たす役割

今日本が直面している課題は色々ありますが、とりわけ①百歳まで生きる超高齢化社会の到来、②国内の殆どの市町村で進む人口減少、③急速に進化する情報化、④多発する自然災害という四つは、地域づくりにとつて避けて通れない大きな社会問題となつていきます。ところがこれらの問題の方向性さえ見出せていないのに、突然起き

た新型コロナウイルスの影響で、大きな混乱を招いています。不要不急の外出を控えざるを得なくなり、Zoomなどを使ったオンラインによるウェブ会議などが急速に広がり始めましたが、ゼロに戻つて考えれば、「自分とは」「豊かな人生とは」「楽しい家族とは」「住み続けられる町とは」「町の活性化とは」「どうあるべきか色々考えた結果、殆どにおいて「知らな過ぎた」「求め過ぎた」「不平不満を言い過ぎた」「傍観し過ぎた」様なことが少しずつ分かつてきました。これからは「人と情報のネットワークとフットワーク」が不可欠であるという地域づくりの原点に立ち返り、ローカルとグローバルを組み合わせたグローバルメディアを使つて、自分と地域の魅力を発信し楽しく生きて行きたいと思っています。

「コロナ禍で 益々進む 情報化
田舎の遅れ 気になりながら」
「不燃人 可燃人へと 格上げをやがて自然や 類燃人に」
「ローカルと グローバル足し グローカル
これから目指す メディアの社会」
「住んでいる 地域の魅力 再確認
アーカイブスで 保存活用」
(若松進一の実売談話)